

地域課題の解決に向けた取組

地域林業活性化の実現に向けて

網走西部森林管理署

【はじめに】

網走西部森林管理署は、オホーツク総合振興局管内の湧別川流域の遠軽町及び湧別町に所在する約 10.6 万 ha の国有林を管理しています。

当署管内の森林は、地域の主要河川である湧別川とその支流が水源地域となり、地域の生活用水をはじめ、農林水産業の振興に資するなど重要な役割を担っています。

【地域の現状と問題点】

網走西部流域全体で人工林の約 6 割を占めるトドマツが、今後本格的な利用期を迎えます。一方で林業労働者は、機械化が進む木材生産分野では増加傾向にあるものの、造林・種苗分野では人力主体の作業かつ季節労働が多い状況であるため、その確保が難しくなっています。

このため、今後トドマツが本格的な利用期を迎える中で、再造林を確実にを行うためには、少ない人手でより広い面積を植栽できること、また、苗木の生産力の向上が課題になっています。

このような中、コンテナ苗は、植栽作業が効率化でき、また、植栽可能な期間を長期化できることから、植栽面積の確保に有効と考えられます。加えて、少ない人手で生産可能でもあり、その普及が期待されています。



トドマツコンテナ苗

【地域課題に対する取組】

当署においては、地域課題に対する取組として、トドマツのコンテナ苗が夏季に植栽可能であるか、トドマツよりも育苗期間が短く初期成長が良いとされるドイツウヒがトドマツの代替となるかを検証するための試験林を設定しています。

この試験林は平成 30 年に設定しており、植栽

した苗木の 1 年後の活着率や、5 年後の残存率と生長率の調査を実施しています。

トドマツ夏季植栽については、植栽 1 年後の活着率及び 5 年後の残存率は普通苗に比べ良好な結果（コンテナ苗は活着率 100%）となりました。

また、ドイツウヒについては、トドマツに比べ 5 年後において、残存率は下回ったものの、生長率は上回り、期待が持てる結果となりました。

この試験林に加え、令和元年度にクリーンラーチ夏季植栽及びドイツウヒ、令和 2 年度にカラマツ夏季植栽及びドイツウヒの試験林も設定しており、さらに検証を深めたいと考えています。



上空からのコンテナ苗試験林。令和 4 年度には、民有林・国有林の技術交流の場として現地で意見交換も行いました。

【今後に向けて】

今年度からの新しい取組として、肥料を与えることで、通常は 4 年程度の育苗期間を 2 年に短縮したトドマツコンテナ苗を植栽し、試験林に設定しました。

今後も、様々な機会を通じてこれらの試験結果等について発信し、地域の林業活性化の実現に向け取り組んでいきます。



育苗期間短縮苗試験林の植栽時の様子